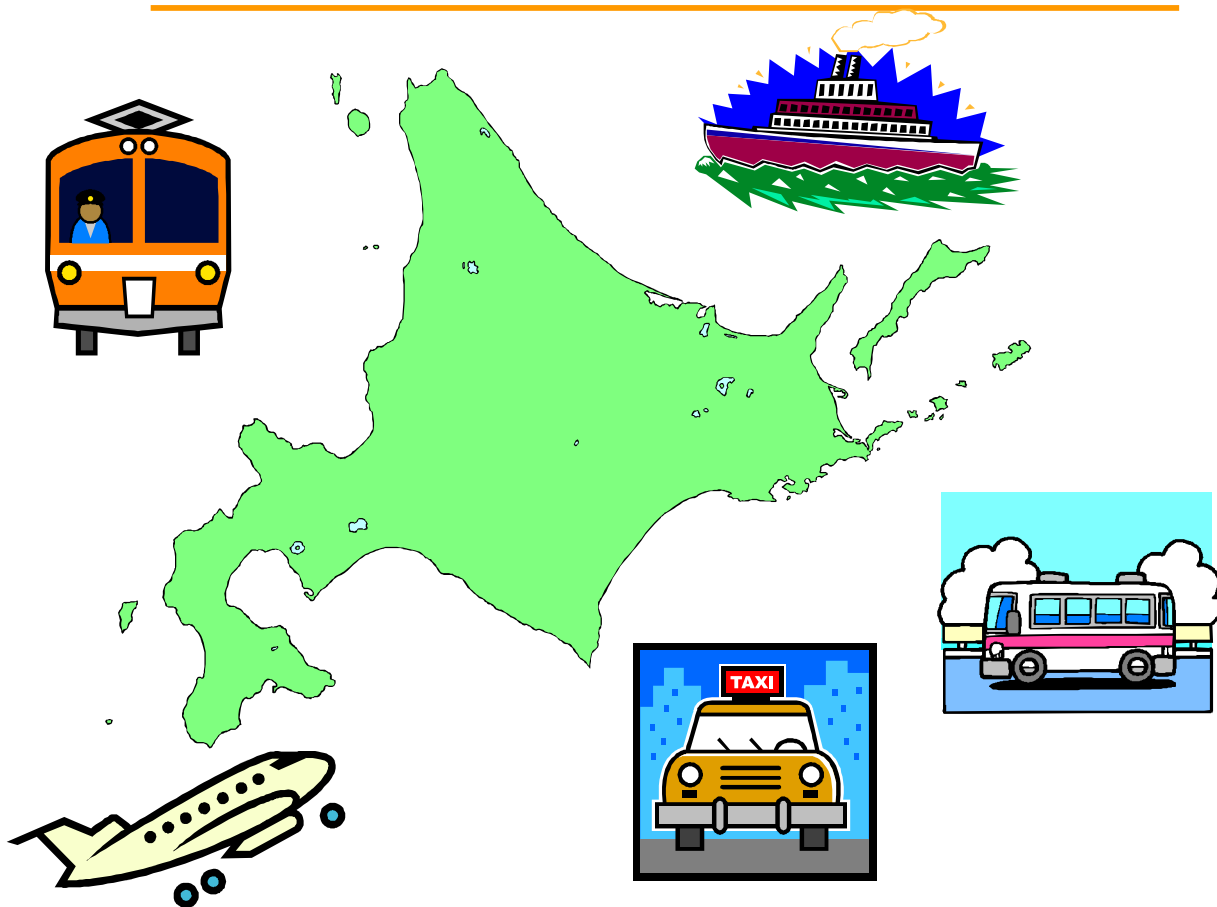

こころ豊かなくらしを支えるシームレスな 交通社会を目指して

～ 北海道における公共交通・地域交通環境計画 ～

フォローアップ



環境保全のため両面印刷採用

平成18年3月
北海道運輸局

目 次

はじめに	1
・シームレスなモビリティ社会の実現に向けて（答申の概要）	2
1．公共交通の利用促進による交通ネットワークの持続的な維持	3
（1）観光と公共交通機関との連携	3
（2）新たな交通サービスの提供	6
（3）地域が支えるモビリティ	7
（4）地域住民・事業者・行政の協働	8
（5）今後のバスネットワークの構築	9
（6）路面電車の活用方策	10
2．地域内交通サービスと住民参加によるコミュニティの形成	11
（1）福祉輸送の現状	11
3．バリアフリー化の推進	12
（1）ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー施策の推進	12
（2）バリアフリー化の現状と関係機関等との連携	15
4．情報、通信技術の活用	21
（1）札幌圏における交通系ＩＣカード導入の促進	21
（2）ＩＴを活用したよりきめ細やかな交通サービスの提供	22
・環境に配慮した交通のあり方（答申の概要）	24
1．環境負荷（ＣＯ２排出）の小さい交通運輸	25
（1）モーダルシフトや物流効率化	25
（2）公共交通の利用促進	27
2．交通環境施策の効果的な推進手法	30
（1）交通環境と合意形成	30
・公共交通機関等に係る安全・安心の確保（答申の概要）	36
1．国、関係機関及び交通運輸事業者等の連携による安全運動の推進	37
（1）国、関係機関及び交通運輸事業者等の連携	37
（2）放置座礁船対策	41
・非常災害時における対応（答申の概要）	42
1．緊急時の輸送支援や輸送ネットワークの構築に必要なデータベースの整備 ...	43
（1）緊急輸送車両支援システムの構築	43
2．安全で円滑な輸送や利用者利便の確保に必要な交通関係情報の提供	44
（1）北海道運輸局ＨＰ「北海道お出かけリンク」を拡充	44

はじめに

北海道地方交通審議会では、平成13年3月に21世紀に向けての北海道における交通ネットワークや公共交通機関のあり方等について「公共交通機関の維持整備に関する計画」を策定したところです。

しかしながら、今後、公共交通をめぐる21世紀型の課題である「少子高齢化と人口の減少」「技術革新による情報化の進展」「地球環境問題」などに配慮した交通のあり方などへの対応が一層求められる中、同計画に示されたこれら課題に対する基本的考え方をさらに掘り下げる必要があることから、平成15年3月北海道運輸局長から北海道地方交通審議会に対し「北海道における公共交通・地域交通環境計画」について諮問を行い、

- ・ 交通の利用に係る移動の円滑化
- ・ 環境に配慮した交通のあり方
- ・ 公共交通機関等に係る安全・安心の確保
- ・ 非常災害への対応

などについて、北海道地方交通審議会の下部機関である交通環境計画策定部会において検討を重ね、公共交通が今後とも環境に優しく、地域住民の暮らしや地域のあり方を支える上での重要な社会基盤との認識に立ちつつ、シームレス（継ぎ目のない）、サポート（人的支援等）、セーフティ（安全）の3つのSとエンバイロメント（環境）の1つのEを基本的な柱として、地域の具体的なニーズや特性にあった交通施策のあり方などについて、平成16年12月～ ころ豊かな暮らしを支えるシームレスな交通社会を目指して～「北海道における公共交通・地域交通環境計画」を北海道運輸局長に答申がなされたところです。

つきましては、関係者各位のご協力のもと、これら計画の円滑な推進を図るため、今日までの進捗状況を報告し、今後の北海道における公共交通や環境計画などへの理解を深める一助となることを期待しております。

シームレスなモビリティ社会の実現に向けて (答申の概要)

シームレスなモビリティ社会の実現に向けて

現状と課題

1. 少子高齢化と人口の減少
2. 国、地方自治体等の財政状況の悪化
3. 交通事業者の経営体力の脆弱化
4. 高齢者人口の増加と「ノーマライゼーション」の考え方の広がり
5. 都市構造の変化（都心回帰等）
6. IT等の新たな技術の進展
7. モータリゼーションの進展
8. 経済的規制緩和と新たな交通サービス

基本的な考え方

1. 交通を取り巻く環境の変化に対応した交通ネットワークのあり方
2. 市民活動やNPOとの連携による広域ネットワーク
3. バリアフリー化
4. 観光・商業事業者等との連携
5. 柔軟で多様な運賃システム
6. ITの活用と情報提供の充実

具体的なあり方 地域内（生活）交通

1. 地域内（生活）交通における公共交通の利用促進による交通ネットワークの持続的な維持
2. 地域内交通サービスと住民参加によるコミュニティの形成

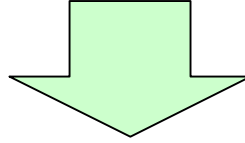
具体的なあり方 都市圏・地域間

1. 都市圏・地域間における公共交通の利用促進による交通ネットワークの持続的な維持
2. 情報、通信技術の活用
3. 冬季におけるモビリティの確保

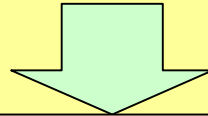
1. 公共交通の利用促進による交通ネットワークの持続的な維持

(1) 観光と公共交通機関との連携【その1】

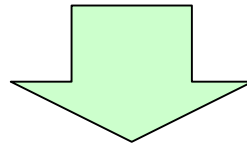
知床地域が平成17年7月に世界自然遺産に登録



国内外から観光客が増加
(平成17年7～10月の4ヶ月間で約117万人)
【前年同月比約17%増】



マイカー・レンタカーの利用者が全体の約55%



将来にわたって、知床地域の自然環境を保護するために、鉄道、空港からのアクセスや域内移動における公共交通機関への転換を推進

環境との調和も考慮した利便性向上策

具体的な取り組み

アクセスバス（冬季）の改善策の実施
(認知度の向上)

- ・ポケット版時刻表の作成・配布

アクセスバスの通年運行に向けた利用者ニーズの把握（夏季アンケート調査）

- ・バス利用者（阿寒・知床ウトロ号）
- ・宿泊者（ウトロ・網走、阿寒、川湯）

公共交通、低公害車利用への誘導

- ・意見交換会の開催

課題

アクセスバスのサービスレベルの向上

- ・便数の充実
- ・他交通機関との乗り継ぎの改善

環境に配慮した交通行動の促進

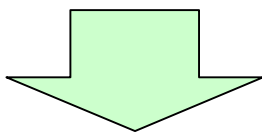
- ・マイカー規制の充実、範囲の拡大
- ・低公害バスの積極的導入
- ・公共交通、低公害車利用者への優遇策の実施（土産品・駐車料金の割引など）

観光客の分散化

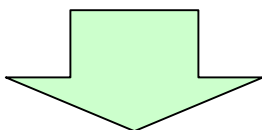
- ・観光情報の発信（釧根地域への誘導）
- ・エコツーリズムの推進

(1) 観光と公共交通機関との連携【その2】

ニセコ・羊蹄エリアは、道内有数のアウトドアレジャーゾーン、国際リゾート地としての期待



同エリアのリゾート交通の検討



・ 域内へのアクセス交通手段（一次交通）の充実

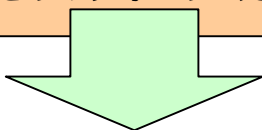
新千歳空港内における外国語案内標識の充実（英語、韓国語、中国語）
ニセコ 千歳・札幌間の路線バス車内における英文ビデオ観光案内の実施
夏季のアクセスについて、特に新千歳空港との連絡バスやJRとバスの乗り継ぎ利便の向上について具体対応を検討

・ 域内を連絡周遊する交通手段（二次交通）の充実

- 地域内周遊バスの実証実験（アンケート調査の実施）
- ・ 平成17年7月30日～10月10日までの土・日・祝日 ぐるりぬぷり号の運行
- 外国人観光客が利用しやすいバス交通に向けて、乗合バス路線（ニセコ町、倶知安町を発着）において、停留所標識の英語表記、行先方向幕の英語表記及び英語での車内アナウンス等の実施

・ ITを活用した利用者サービスの向上

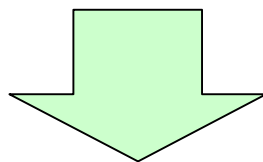
- 既にスキーリフト券として整備されているICカードなどITの活用によるサービス向上策を検討
- ・ 利用施設の拡大
 - ・ 利用の通年化
 - ・ ICリフト券の機能の拡大
- ニセコポータルサイトの構築の検討
地元関係者の意識を高めるためのフォーラムを開催（平成18年2月）



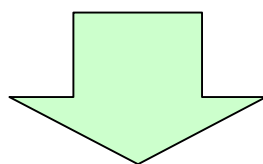
地域で取り組まれている観光戦略と連携し、観光客にとって年間を通じた利便性の高い交通手段のあり方を検討

(1) 観光と公共交通機関との連携【その3】

えりも岬や日高山脈・海岸美や牧場景観などの
観光資源と公共交通との連携



日高・広尾エリアの観光・交通振興の検討



■ 情報発信の強化

- ・ 観光パンフレットの作成、配付

■ 無料バスの試験運行（アンケート調査の実施）

- ・ 観光資源の掘り起こし
- ・ 公共交通の改善策の検討

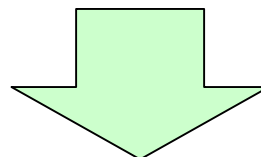
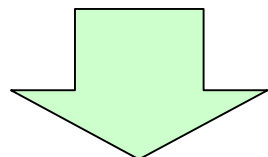
■ 既存バス路線の活性化（お得なバス乗車券の試験発行）

- ・ JR北海道バス（試験後も継続発行中）
上野深～えりも～広尾間にて、1日乗降フリー乗車券を発行
（平成17年8月～当面18年3月の土・日・祝日：おとな1,000円、こども500円）
- ・ 十勝バス（試験中のみ発行）
帯広～広尾間にて、1日乗車券を発行
（平成17年8～10月の土・日・祝日：おとな1,000円、こども500円）



(2) 新たな交通サービスの提供

DMV (デュアル・モード・ビークル) の活用



期待される効果

道路渋滞回避による定時性及び機動性の向上

鉄道沿線の目的地までの移動のシームレス化

ローカル鉄道のコスト削減

省エネ (環境負荷の低減)

課題

走行安全・安定性の確認
(積雪寒冷地での走行安全・安定性等について長期走行試験等による確認)

バリアフリー化への対応

定員の拡大化【現状18名/1両(運転士含む)】

平成18年度内の実用化を目指す

JR北海道は平成17年10月にU-DMV (DMVを2両連結) の走行実験をJR石北線北見~西女満別~女満別空港間で実施し、あわせて北海道運輸局において以下の検証を実施

- ・利用者ニーズ調査
- ・既存バス路線との機能分担
- ・空港アクセスや観光活用等地域の活性化に結びつく公共交通機関への活用



デュアル・モード・ビークル (DMV)

道路とレールの両方を自在に行き来し走行できる新しい乗り物

(3) 地域が支えるモビリティ

当別町内及び石狩川を挟んだ対岸の札幌市あいの里地区を多種多様に運行している複数のバスを統合して管理を一元化することにより、合理的かつ効率的な運行路線とダイヤの構築による運行経費の削減、地球環境への負担軽減、地域住民への新たな生活手段の提供について検討

平成
17
年度

当別町版コミュニティバス 一元化イメージ図



・JR石狩当別駅等の町内公共施設、商業施設をめぐる足
・JR運行ダイヤと連携した札幌への通勤の足
等の確保

平成
18
年度

当別町コミュニティバスの 実証運行

維持費、人件費等を削減し、
より利便性の高い“地域の足”を確保する

運行改善策の検討・利用促進策の検討
(公共交通活性化プログラムにより検討)

平成
19
年度

バスの本格運行

まちの活性化

(4) 地域住民・事業者・行政の協働

札幌市清田区の「美里団地」バス停における取り組み

清田区では、老朽化した「美里団地」バス停の様々な問題を抜本的に解消するために、地域住民、バス事業者、行政による一体的な取り組みが必要と考え、ワークショップを開催し、現状や課題に対する共通認識の醸成を図った上で、改善の方向性と役割分担について整理をした。

結果として、清田区が待合所周辺の整備をし、バス事業者が新しい待合所の設置、地域住民が植花と日常的な清掃を担うこととなった。



以前の待合所



新しい待合所



植花活動

(5) 今後のバスネットワークの構築

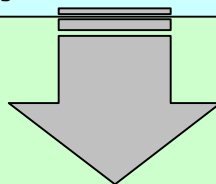
札幌市における取り組み

札幌市総合交通対策調査審議会

札幌が目指す将来の都市像におけるバスネットワーク維持のために札幌市が担うべき役割について審議

【主な検討事項】

- ・バス交通のわかりやすさ、使いやすさの問題について
- ・バス交通の利用環境改善の方向性について
- ・地域特性と路線形態について
- ・バス交通の今後のあり方



最終答申

平成18年7月下旬

バス路線維持方策 検討委員会

バス交通維持について、市が主体的に維持方策を検討すべきとの第一次答申に沿って、具体的な制度や基準を作成するにあたり、公開性と客観的視点で検討

学識経験者、会計専門家等で
構成

バス事業 連絡協議会

バスの利用しやすさや事業環境改善のための情報交換を実施

札幌市、バス事業関係者（札幌市交通局、市内バス事業者）で
構成

(6) 路面電車の活用方策

